

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

鹿児島純心大学

令和6年3月

鹿児島純心大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・人間教育学部 教育・心理学科（幼、小、中・高 英語、特別支援）
- ・看護栄養学部 看護学科（養護）、健康栄養学科（栄養、中・高 家庭）

大学としての全体評価

鹿児島純心大学は、人間教育学部、看護栄養学部の2学部があり、人間教育学部は教育・心理学科（初等中等教育専攻と心理・文化専攻）、看護栄養学部は看護学科、健康栄養学科から構成されている。

本学は、学則第2条において「カトリック精神に基づく人格教育を行い、学問研究及び教育の機関として、広い知識と深い専門の学芸とを教授し、知的・道徳的及び応用的能力をもつ人間形成につとめ、心理と平和を愛し、文化の発展と人類の福祉に寄与する人物を育成することを使命とする。」と規定している。これを受けて、本学の教員養成に対する理念は、大学で育む豊かな教養と各学科で培う高い専門性を、学校現場で生きて働く実践的指導力として統合し、教職生活全体を通じて学び続け、成長する教員であるための基盤をつくることにある。

本学における教員養成においては、全学の教職課程カリキュラムの企画・運用、教育実習や介護等体験、地域連携教育活動、免許取得の手続き、進路指導等の具体的な指導に関しては教員養成センター及び進路支援課が組織され、各所属の職員が担当事務に当たり、お互いに連携しながら教職指導・学生支援に当たっている。

具体的には、薩摩川内市と連携しながら1年次から卒業年度まで継続的に学校体験を積み重ねさせる教員養成カリキュラムの開発や教員採用試験対策等のキャリア支援、教員養成に係る対学生、対教職員、対外的な窓口業務の一本化、及び会計業務等の一元化に努めることにより、教員養成体制の機能化を図っている。また、卒業生（教員及び教員志望者）に対する講習会や採用試験対策等を企画・実施するなど、継続的に教員の資質向上に資することができるようにしている。さらに、地域貢献の観点から、学生の学外体験活動や共同研究・授業研究サポート等を行い、当該校及び地域の教育力向上に資する取組を継続している。

本学の教職課程では、そのすべてにおいて、以上のような理念や構想・具体的な取組によって、全体的に調和のとれた教育が行われていると評価できる。

鹿児島純心大学

学長 山口 明美

目 次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	7
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	10
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	11
V	現況基礎データ一覧	11

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：鹿児島純心大学
- (2) 学部名：人間教育学部 看護栄養学部
- (3) 所在地：鹿児島県薩摩川内市天辰町 2365 番地
- (4) 学生数及び教員数

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

学生数：	人間教育学部	教職課程履修 123 名／学部全体 194 名
	看護栄養学部	教職課程履修 86 名／学部全体 385 名
教員数：	人間教育学部	教職課程科目担当（教職・教科とも）38 名／学部全体 65 名
	看護栄養学部	教職課程科目担当（教職・教科とも）28 名／学部全体 52 名

2 特色

本学、教育・心理学科では、カトリック精神に基づく広い視野と豊かな人間性を育みながら、教育現場に求められる「チーム学校」の理念のもと、教員、保育士、公認心理師等の養成を行っている。幅広い人間教育と専門教育及び地域での学びを通して、高度な専門的知識と実践的な指導力を備えた、社会に貢献できる人材を育てることを目的とし、その中に、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者）を取得するカリキュラムを設定している。

看護学科は、人々（個人・集団・地域）の健康生活の支援者として社会に貢献できるように、保健医療福祉活動を幅広く探究し、看護を必要としている人の立場に立てる深い人間愛と豊かな人間性を養い、幅広い知識・技術・判断力などに支えられた高い専門性と人間性を有する実践者として、看護師、保健師、助産師、養護教諭を育成している。その一環として、養護教諭一種免許状を取得するカリキュラムを設定している。

健康栄養学科では、高い専門性と豊かな人間性を備えた管理栄養士を養成している。高度な栄養管理を行う管理栄養士として活躍するために、現代社会が抱えている健康・医療・福祉などのさまざまな問題に的確に対応できるよう、新しい時代の目で捉えた専門科目群のほかに、その基礎となる「いのち・食」について考える科目を取り入れている。その一環として、栄養教諭一種免許状、中学校・高等学校一種免許状（家庭）を取得するカリキュラムを設定している。

そのために、いずれの学科も、本学の教育理念及び建学の精神のもと、教育の原理や心理、各教科等教育などの基本を踏まえながら、教育実践現場の理解や実践的指導力を身に付ける機会を充実させ、子どもを取り巻く環境を理解しながら、それに寄りそった教育が実践できる教員養成を目指し、教職課程の運営を行っている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

本学は、「カトリック精神に基づく人格教育を行い、有為な人材を育成する」ことを教育理念とし、教育課程は、「聖母マリアのように神様にも人にも喜ばれる人間の育成」を目標としている。カトリック精神を原点として学ぶことによって、学生一人一人がいのちの尊厳をかみしめ、人間としての深い知恵を身につけられるよう、本学では独自の教育課程を編成している。本学の創立者であるシスター江角ヤスの遺訓にもあるように「マリアさまいやなことは私がよろこんで」という気持ちをもって、自分と他の人々の真の幸せのためにすすんで働くことができるような人を育成する。そのためには、豊かな人間性に裏打ちされた、高度な知識や技術を育む専門教育が必要であり、「いのちを育む知性と愛」のカリキュラムが求められる。

そこで本学では、以上の教育理念・目標を実現するために、「純心講座」、「キリスト教概論」などの独自科目を基礎教育科目として開設し、すべての学生が学ぶとともに、これらの基礎教育科目を基盤として専門教育科目では、学科ごとに特色あるカリキュラムを展開している。

本学の教職課程はこれらの特色あるカリキュラムにより、豊かな人間性を育むことを土台として、教員として必要な基礎的な知識と専門的知識・技術を身に付けて、広く社会に貢献できる人の育成を目指している。

〔優れた取組〕

本学における教職課程においては、教職に係る理論知と実践知を往還させ、教員としての基礎的・専門的な知識と技能をもって学校教育に貢献できる人材の育成に努めている。この点を土台として、それぞれの教職科目のシラバスに到達目標としてのラーニング・アウトカムを明示し、教職課程教育の目的・目標と学修内容を学生自ら確認しながら学びを深め、自身の成長や課題を確認できるようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程教育の目的・目標や目指す教員像は、本学の教育理念や建学の精神を踏まえながら、教育に関する動向や社会の変化及び教育に関する様々なニーズ等に応じて改善・充実させていく必要がある。特に、Society5.0 や SDGs、教育の DX といった近年の教育上の課題や目標を反映させる必要もある。

さらに、このような理念・目標等が十分に生かされるためにも、非常勤講師、新任教員を含め、全ての教職員に対して、継続的に十分な共通理解を図ることも課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 学生便覧、2023 年、pp.1-3

- ・資料 1-1-2 : 教職課程履修の手引、2023 年、pp.4-5
- ・資料 1-1-3 : 教員養成センター ホームページ

<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/kyouin/index.html>

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

本学では、全学の教職課程を担当し、全学に係る教職課程カリキュラムを一元的に企画・運営することにより、教員養成の充実を図ることを目的として「教員養成センター」を平成 22 年 4 月に設置し、実践的指導力を有する教員を養成している。これは、2 学部 3 学科の教職科目を担当する教員、学生支援課・進路支援課の事務職の 13 名で構成される組織で、その主な活動内容は次のとおりである。

- ・教員養成カリキュラムの内容・方法の改善に関わる全学的な企画及び推進
- ・教育実習・介護等体験等の企画及び実施
- ・教職課程認定に関する申請業務等
- ・教員免許状及び教員に係る資格の取得に関する業務
- ・教員志望学生に対するキャリア支援施策の企画及び実施
- ・地域の教育機関等との交流及び連携に関する事項の企画及び推進
- ・免許法認定講習の企画及び実施
- ・教員及び教員志望の卒業生に対する講習会等の企画及び実施

これらの活動は、研究者教員と実務家教員、事務職員が役割分担をした協働体制で実施され、教職課程の在り方や質の向上については教員養成センター所員会で協議・改善するとともに、教職課程に関わる情報の公開なども大学ホームページやセンター報等の報告物・掲示物で適宜行っている。

〔優れた取組〕

教員養成センターでは、大学生の就業力育成支援事業の一環として、また卒業後の教員としての実践力を高めるために継続的・段階的なキャリア支援を行っている。

第 1 段階として、「学校インターンシップ」では実社会を体験することにより初年次からの就業意識の涵養を図る。これは「学校インターンシップ I」「学校インターンシップ II」とし 1~3 年次の間に複数回の学校体験と事前事後指導を単位化し、学生の積極的な参加を促すものである。

第 2 段階として、「学校インターンシップ」を体験した幼稚園、小・中学校における定期的かつ長期にわたる現場体験「教職フィールドワーク」「養護教諭フィールドワーク」により職業人としてのスキルアップを目指す。この積み重ねが第 3 段階の教育実習等をより充実した実習にさせるものとなる。これは 2 年または 3 年連続して実施することにより、単なる職場体験から教育現場における実務者としてのスキル向上を図る目的だけでなく、視野の広がりや豊かな発想力を養うという目的がある。

教員の実践力育成の最終段階としては教育実習後に「教職実践演習」を実施する。上述のとおり各段階を通じて、教職における使命や資質について実践的に探究し、卒業後の教員としての高度な専門性と実践力をもつ人材の育成を実現していく。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程教育を行う上での施設・設備等については、現代の小・中学校等現場のそれと比較して、デジタル教科書を用いた教育指導への対応や一人一台端末の活用など十分な状況とは言えない。教職課程の質向上のために、授業・カリキュラム改善、教職員の能力開発等の取組を継続して充実させる必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-2-1：教員養成センター ホームページ
<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/kyouin/index.html>
- ・資料 1-2-2：教員養成センター報、2023年、pp.44-49
- ・資料 1-2-3：教職課程履修の手引、2023年、pp.6-38

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

本学では、大学全体の「アドミッション・ポリシー（AP）」として以下の4つを掲げている。

1. カトリック精神に基づく教育に理解をもち、豊かな心と優しさを持つ人
2. これまで修得したあらゆる科目と課外活動を土台として、幅広い教養と高い専門性を身につける意欲を持つ人
3. 柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望し、好奇心をもって主体的に何事にも一生懸命に取り組む人
4. 地域社会や人々に関心をもち、多様な価値観を受け入れ、対話や協働を大切にできる人

これを受けて、各学部・学科における AP を設定し、教職課程を履修する基準等を設けて教職を担う学生の確保・育成に努めている。具体的には、人間教育学部においては、3年次もしくは4年次に行われる教育実習への参加要件を免許状ごとに定めている。また、看護栄養学部の看護学科では、2年次終了時の単位修得状況等をもとに養護教諭選択学生を決定することとしている。そして、健康栄養学科では、2年前期までの成績や学習態度、出席状況、生活態度が良好であることなどを教職課程履修の条件としている。

〔優れた取組〕

教職課程のガイダンスや教育実習のオリエンテーションについては、各学科と連携しながら教員養成センターが「教職課程履修の手引」をもとに、年度当初や各学年の必要な時期に一括して行っている。また、「履修カルテ」の活用及び指導に関しては、学生に各自「履

修カルテ」のフォーマットに沿って、毎年各科目の修得状況、自己評価などを作成させ、教職課程担当教員は各学生に対してコメントを作成し、それに基づき指導を行っている。さらに、4年生後期の「教職実践演習」では、「履修カルテ」を学生の自己課題の分析や今後の課題追究のためにも活用している。

〔改善の方向性・課題〕

本学の人間教育学部教育・心理学科の約半数の学生は幼稚園、小・中学校の教員を目指している。一方、看護栄養学部は看護師・保健師・助産師・管理栄養士等の国家資格受験資格取得を主たる目的とする学部であり、入学当初に教職課程履修を希望する学生の数が、学年を追うごとに減少していく傾向がある。これは、キャリア教育・指導の成果の一つともいえるが、教職を担う学生の確保のために教職の意義や魅力を伝える教職指導をさらに充実させる必要がある。

また、教職を目指すという進路選択の意思が決まらず、採用試験に対する取組が遅延する学生も存在する。そのような学生に、今以上により丁寧な個別指導を行い、教職課程履修の意思確認や取組の状況確認に努める必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-1-1：学生便覧、2023年、pp.2-8
- ・資料 2-1-2：教職課程「履修カルテ」
- ・資料 2-1-3：教職課程履修の手引、2023年、pp.7-10
- ・資料 2-1-4：教員養成センター ホームページ

<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/kyouin/index.html>

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

全学的なキャリア支援を行う進路支援課では、「進路登録票」を基にした「個別面談」を全学科3年生に実施しており、教職への意思確認等も行っている。また、全学に係る教職課程カリキュラムを一元的に企画・運営している教員養成センターでも、教職希望3年生を対象にした「個別面談」を実施しており、本人の適性や教職を志望する不安や悩みなどについて具体的に指導・助言を行っている。

各教育委員会が実施する「教員採用選考試験（大学推薦）」について、応募希望者には随時「学内推薦選考会」を実施するなど、全学的な支援体制を整えている。また、「教員採用選考説明会」では、鹿児島県教育庁教職員課による「鹿児島県が望む教師像」講演や、「試験要項・願書説明会」など必要な支援を行っている。さらに、公立学校教員採用試験合格発表後には「臨時的任用教員説明会」や、「私立学校」を希望する学生に対しても情報提供を行うなどの支援を行っている。

教育委員会や教育事務所からの教員募集情報やパンフレット、チラシ等を始め、過去の試験問題集及び参考書、卒業生による「受験報告書」等を学生が自由に閲覧・貸出できるように、ブース等を設置している。また、卒業生にも SNS 等での情報発信に努めている。

教員採用試験対策として「教員採用試験対策模擬試験（年間5回）」、「公務員採用模擬試

験（年間2回）、「一般教養対策講座（4日間）」等を実施している。また本学教員による「教員採用試験対策講座（年間25回）」も実施するなど、試験対策を強化している。

さらに、教員採用1次試験合格者（卒業生含）には「教員採用2次試験対策講座（3日間）」を実施し、教員就職率の向上を図っている。

進路支援課では教職に就いている卒業生を招いて、教員採用試験対策や教職現場での経験や思いを聴く講話会や座談会を実施している。

〔長所・特色〕

「進路登録票」には、希望する進路や将来計画等を始め、学生生活全般にわたり記載がされているため、「個別面談」が効果的に実施されている。また教員養成センター面談者は教職経験者で構成されており、広い視野から教師に求められる資質・能力について理解できるように促している。

進路支援課、教員養成センターは協働しており、個別面談の結果を共有することで、教職への意欲、適性を把握し、教職を目指す学生に必要な支援を適切な時期に行っている。また、両者は隣接しており、学生には「育成」と「出口支援」が分かりやすく、利用しやすくなっている。

「公務員採用模擬試験」「教員採用試験対策模擬試験」は本学後援会からの経費補助があり、費用負担も軽減した形で受験できるように整えている。

「教員採用2次試験対策講座」は、教員養成センター所員を中心とした教職経験者による、「個別面談」「グループ討議」「実技指導」「マナー指導」等、実践的な内容で実施し、卒業生からも試験対策として貴重な機会として捉えられている。年齢の近い卒業生の講和や座談会を通して、教職現場の幅広い情報収集ができ、教職へのモチベーションが上がるため、教職希望者には貴重な機会となっている。

〔取り組み上の課題〕

本学では、入学時の教職課程のガイダンスをスタートとして、学修を進めながら教職を目指すという進路を決定させるようにしているが、実際のところ、教職への魅力は感じつつも卒業後の教職採用率や教員の仕事内容などから判断して、大学で取得可能な資格等を生かして、他の職種への就職を希望する学生の方が多い。教職に就きたいという意欲を高め、それを継続させながら教職への意思を強くしていく個に応じたキャリア支援の充実が課題である。そして、今後の採用試験の早期化や複線化に伴い、教職に関する学修の充実を保障しつつ卒業後の進路決定の支援をより強化し、教職に関する就職活動関係の情報提供をさらに充実させていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：教員養成センター報第7号4．キャリア支援実績（令和4年度）
- ・資料2-2-2：大学ホームページ 進路支援

<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/placement/suppor>

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学の教職課程教育に当たっては、建学の精神と教育理念に基づいた「ディプロマ・ポリシー（DP）」を定め、DPで示した資質・能力を身につけられるよう、「カリキュラム・ポリシー（CP）」を定めている。本学における教職課程カリキュラムは、DPに示した「豊かな人間性と教養を備えること」「社会に貢献する高い意識と広い視野を持つこと」「自他ともに尊重し命の尊さを認識するとともに、社会において責任ある行動のできる自律力を備えること」の育成のために必要な科目を配置し編成している。また、本学の教職課程カリキュラムの授業科目は、文部科学省の「教職課程認定基準」に定められている学科相当性に基づき教職課程科目を開講しており、「教育の基礎的理解に関する科目等」については、教職課程コアカリキュラムに基づく授業計画をシラバスに反映し、教職課程カリキュラムの編成を行っている。なお、教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、今日の学校教育に対応する内容上の工夫を行うとともに、各年度当初の教職課程説明会や実践的教職科目等の事前・事後指導等において、本学の実務家教員、教育委員会・現職学校教員などによる現在の学校教育の状況や求められる教員像等についての講話や指導を行っている。

情報活用能力を育てる教育への対応が可能となるための指導として ICT 活用等に関する専門的内容については、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」、「教育の方法・技術」や各教科の指導法の科目を中心に指導を行っている。また科目の学修において Moodle を活用して教材の配信やレポート等の提出を行うとともに、必要に応じてオンライン授業を実施したり、パワーポイントを活用した発表や教育実習の現場でも活用できる ICT 機器の活用法について指導を行ったりしている。併せて、アクティブ・ラーニングを促す工夫として各科目のシラバスにアクティブ・ラーニングの具体的な方法を記載して意識づけ、授業内容や場面に応じてグループワーク、グループディスカッションなどを行い、学生の課題発見や問題解決等の力量を育成している。

各科目の学修内容や評価方法等については、授業担当者が授業ガイダンス時に説明するとともに、シラバスで学生に明示している。

教育実習科目の履修・指導に当たっては、「教職課程履修の手引」に教育実習の条件を定めて、教育実習に参加するすべての学生がこの条件を満たすことを求めている。また、教育実習のスケジュールは各学科、取得を目指す免許状によって異なるので、4月の教職課程説明会とは別に、実習の事前訪問等も含めたオリエンテーションで計画的・継続的な教職指導を行っている。

教職課程を担当する教員は、毎年学生が提出した「履修カルテ」を確認し、それに対してコメントによるフィードバックを行っている。さらに、「教職実践演習」においても、「履修カルテ」を利用しながら、学生がこれまでの教職課程の学びを振り返ることによって追究すべき自己課題を見出し、それを克服するための学校現場等での実地研究や研究成果の発表をさせている。

〔優れた取組〕

教職課程のカリキュラムの編成・実施に関しては、2学部3学科の教職課程に関する業務を一括して管理・運営する教員養成センターによって組織的・効率的に行われている。教職課程を履修する学生に対しては、年度当初のガイダンスおよび「教職課程履修の手引」や「教職課程履修カルテ」等において、モデルカリキュラムを例示することにより、年間の過重な単位登録の回避、次年度、次々年度の時間割を見通した履修計画の作成、3～4年次での介護等体験と教育実習を見通した学生生活についての展望を促し、4年間での卒業に必要な単位の取得と教職課程の履修が計画的かつ円滑に行われるように指導している。

〔改善の方向性・課題〕

本学の教職課程カリキュラムは、教職課程のコアカリキュラムに沿って編成・実施しているが、各科目の履修によって培われる教員としての素養や資質・能力が「教員育成指標」とどのように関連しているかが明確に示されていない状況である。教職をめざす学生にとって、各学年段階や取得予定免許状の種類によって、自己の学びを省察し、成長過程や課題を確認しながら教職課程での学びを深めていくためにも、今後、文部科学省や各都道府県等の教員育成指標を踏まえた指導の在り方について検討していく必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-1-1：学生便覧、2023年、pp.2
- ・資料3-1-2：教職課程履修の手引、2023年、pp.7-38
- ・資料3-1-3：Campus Plan Web Service、シラバス

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

本学の教員養成センターは、2010（平成22）年4月に開設以来、全学に係る教職課程カリキュラムを一元的に企画・運営している。本学と薩摩川内市教育委員会及び管内の幼稚園・小・中学校・義務教育学校との間に地域連携教育プロジェクトを構築して、「学校インターンシップ」や「教職フィールドワーク」、「教育実習」「教職実践演習」「各教科等の指導法」等の授業科目で、管内の学校現場等で実践的な指導への協力をいただいている。

また、本学の教員養成に対する地域の支援と地域の教育力向上への本学の貢献について一層の充実を図るため、「研究授業サポート事業」、「こども大学（小・中学校向けの出張講義）」を行っている。さらに、薩摩川内市教育委員会が主催する「薩摩川内市わくわく土曜塾（らく楽算数教室）」の講師として学生が毎月第4土曜日の講座に参加し、実践的な指導力を高めながら地域の子どもの学力向上にも資する活動を行っている。

これらの取組は、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解を深める場となるとともに、時代の様相も反映しながら、地域とともにある大学として本学の教職課程の運営にとって重要な位置付けになっている。

〔優れた取組〕

本学は、平成 18 年に、薩摩川内市教育委員会と連携協力に関する協定を結んでいる。連携協力の内容は、小・中学校等における学校教育の充実に関する事、生涯学習の充実に関する事、学生の実習等の充実に関する事、その他双方が必要と認める事項の 4 項目である。この協定を基盤として地域連携教育プロジェクトを推進しているが、この取組は、教員の養成段階における実践的指導力の育成に大きな効果を上げている。また、大学と教育委員会、学校関係者との間で忌憚のない意見交換・情報交換が行われることにより、大学教員は教育委員会や学校の実情と共に教育現場が求める教員像への理解を深め、教育委員会や学校も大学における教員養成の実情を理解しながら、教員養成への参画意識を強くして多大な協力をいただいている。

〔改善の方向性・課題〕

学生の実践的指導力育成のための取組は、本学教職課程科目の中で積極的に行われているが、変化が激しく今後の予測が困難な VUCA の時代において、教育の DX にも対応した授業内容や方法の見直し・改善を進めていく必要がある。また、地域と共にある大学として、地域の教育的ニーズに対応した連携・協力の在り方や具体的な方策等についても、現在の取組を深めつつ、新たな課題の発見・探究・解決に努めていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 : 教員養成センター ホームページ
<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/kyouin/index.html>
- ・資料 3-2-2 : 教員養成センター報第 7 号、2023 年、pp.42-55
- ・資料 3-2-3 : キャンパスガイド 2024、pp.13-15

III 総合評価（全体を通じた自己評価）

本学の教育の特色は、高等教育機関としての水準の向上に努めつつ、多様な職業に対応できる人材の育成を図るとともに、高度な専門的職業人の育成を目指すところにある。そして、そうした専門教育の基盤となる総合的教養教育を強化し、豊かな人間性の育成に努めている。このため、カリキュラムの基本は、豊かな人間性を培うための「基礎教育科目」と、自他の真の幸せのために与えられた能力を十分に伸ばし、社会に貢献できる高いレベルの「専門教育科目」の二つの柱がある。また、地域の生涯学習の拠点として、教育と研究の一体化を図り、産学連携、国際交流、地域貢献の拡充に努めている。

こうした本学の教育の特色を踏まえ、教職課程自己点検・評価の基準領域に沿いながら総合評価をしていく。

まず、「基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」に関しては、本学の教員養成の理念及び教職課程の設置の趣旨は教職員間で共有化され、協働的な取組は順調に進展していると評価できる。また、2010 年度に設置された教員養成センターの月 1 回の定期的な所員会では組織的工夫を図り、基準領域 1 に関わる質的向上を目指している。

次に、「基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援」に関しては、オープンキャンパス等において入学希望者へ手厚い入学相談を個別に行い、入学後には、教員養成センターと進路支援課が相互に協力し合い、「教職課程履修の手引」等を活用した教職課程説明会や教職課程ガイダンスを行うことで教員を目指す学生をサポートしている。キャリア支援としては、年間を通じた教員採用試験対策講座や、教員採用情報などの情報提供、教職に関する個別の教育相談などを実施しており、そうしたこともあり教員免許状取得件数は増加している。

さらに、「基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム」に関しては、本学教職課程では実務家教員と研究者教員が協力する中で、学校教育の臨床的な学修や理論と実践を往還させる学修を保証している。また、地域の教育委員会と連携協定を結んでいることもあり、教職課程科目の学修や教職課程外の事業等で学生や教員がボランティアで幼小中高校ともかかわっているため、学校教育や社会教育に関する最新情報の収集・活用も可能になっている。

以上の点を総合的に評価すると、本学における教職課程の運営に関しては、教職課程に携わる教職員が協働的にそれぞれの責務を果たしながら、学生のニーズに応じる教職に関するキャリア支援が適切に行われており、地域との連携を考慮した教職課程カリキュラムは編制・実施されていると認められる。

一方、教員養成の段階でも求められる最新の検討課題として、「教育実習・教員採用選考試験の早期化・複線化」、「教職課程を置く 4 年制大学での 2 種免許取得」、「教員養成教育の質保証」、「生成 AI の利活用」、「教育の DX（デジタルトランスフォーメーション）」などが挙げられるが、教職課程を持つ大学を取り巻く様々な教育改革の波に、いかに対応していくかを組織的に検討し実践化していく必要がある。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、一般社団法人全国私立大学教職課程協会作成の「教職課程自己点検・評価基準」をもとに作成した本学の「教職課程自己点検・評価」の基準領域、基準項目等について、まず教員養成センター所員会で提案・審議・承認された。その後、教員養成センター作業部会である「教職課程自己点検・評価部会」で第一次原案を作成・検討・確定し、教員養成センター所員会に提案・検討・修正し、「鹿児島純心大学教職課程自己点検・評価報告書」として承認された。

学長、大学事務局へ提出し、承認を得た後、公表した。

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名					
鹿児島純心女子学園					
大学・学部名					
鹿児島純心大学 人間教育学部 看護栄養学部					
学科・コース名					
「教育・心理学科」「看護学科」「健康栄養学科」					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業生数		144名			
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)		133名			
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)		43名			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)		17名			
④のうち、正規採用者数		10名			
④のうち、臨時的任用者数		7名			
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(助手)
教員数	25名	17名	11名	8名	6名
相談員・支援員など専門職員数 1名					